

20141027

2014年10月27日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 視聴率動向と編成戦略

・視聴率データ

先週（10月第4週）は、三冠王を獲得した。全日の視聴率は、昨年の12月第2週から46週の連続トップである。また、年間、年度平均視聴率において、全日、プライムタイム、ゴールデンタイムともに前年に比べ高くなっている。

週間の視聴率競争は好調であるが、曜日ごとに見ると、非常に視聴率の高い番組が日曜に揃っており、全ての曜日の視聴率が必ずしも良いというわけではない。日曜だけに依存せず、平日を含め全ての曜日で支持が得られるような番組を作っていくことが、これから課題である。

・10月期改編

今年は10月期ドラマの視聴率が良く、全体的に好調を維持している。ドラマ以外は改編していないものの、様々な番組で新企画の投入や、新しいクリエーターの登用を行い、次なるヒット企画を生み出すことに注力している。

10月期の2つのドラマは、非常に良いスタートを切った。

水曜ドラマ「きょうは会社休みます。」は、初回視聴率が14.3%で、2回目が17.0%と2.7ポイントも上がった。これは主演の綾瀬はるかさんの魅力が一番引き立つドラマに仕上がっているからだと考えている。女性層、ティーン層を含めた幅広い世代の方々にご支持をいただいているから益々注目されるドラマになるのではないかと思う。

水ドラ枠では、奇をてらったことをやるつもりはない。女性を中心としてご覧いただいている枠なので、女性が感情移入できる内容であることが一番大切だと考えている。ラブストーリーは当然あるが、職業もの、あるいは家族をテーマにしたドラマも良いと思う。

土曜ドラマ「地獄先生ぬ～べ～」は、初回13.3%だったが、2話目は野球中継「クライマックスシリーズ」の放送延長により、1時間遅れての放送となつたため視聴率は振るわなかつた。しかし、3話目はレギュラーの時間帯で放送し10.1%と盛り返したので、これからもっと上を狙っていくと思う。原作である漫画「地獄先生ぬ～べ～」のファンの方に

も、ファンではない方にも気に入っていたらいいドラマを作っていくうと思っている。

2. 営業状況

・放送収入

9月の放送収入は前年を少し上回った。上半期では、タイムセールス、スポットセールスともに前年比100%を超えており、特に視聴率が好調ということもあり、スポットの引き合いが強い。

・放送外収入

映画は、公開中の「近キヨリ恋愛」が、土日の興行収入ランキングで3週連続1位となった。また、「ホットロード」も好調で、8月16日の公開から観客動員数が190万人を超えた。

イベントでは、読売新聞社と当社で共催した「オルセー美術館展 印象派の誕生 - 描くことの自由 -」の入場者数が71万人を超え、成功裏に閉幕した。

3. その他

・いつでもどこでもキャンペーン（見逃し視聴サービス）

10月から「徳井と後藤と麗しの SHELLY が今夜くらべてみました」、ドラマ「ビンタ！～弁護士事務員ミノワが愛で解決します～」、「ZIP！」のコーナーである「にっぽんわくわくキャラバン」、「おはようハクション大魔王」など配信するコンテンツを追加し、再生回数は順調に増えている。

また、この見逃し視聴に流れる動画CMの販売も再開しており、放送局のチャレンジに大手クリエイントが共感し出稿してくれている。とは言えまだ実験段階にあり、ビジネスとしてどのような効果があるかを放送局とクリエイント双方が実績を分析しながら判断していくことになると思う。著作権の処理、システムの維持、運営のコストなど様々な課題があり、これらを総合的に踏まえて次の対応を考えていく。

・動画サイトへの違法アップロード

違法動画は、野放しにしておけない。放送局サイドも警戒し、監視し、そして必要であれば対抗措置、対応策を講じていく。今後、「日テレいつでもどこでもキャンペーン」のようなキャッチアップ（見逃し視聴）に力を入れるのに合わせて、違法動画対策にもさらに

力を入れ、警察などにも対応を求めながら、コンテンツの価値を守っていくべきだと考えている。

・日米野球

当社は、民放キー局で最多の4試合を地上波で放送する。11月11日に開幕戦となる「日本プロ野球80周年記念試合 阪神・巨人連合×MLBオールスターズ」を放送し、12日から日米野球「侍ジャパン×MLBオールスターズ」の第1戦、第2戦、第3戦を放送する。

(了)